

【様式】

平成29年度 学校マネジメントシート

学校名 (四日市工業高等学校 全日制)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		「技術と精神（こころ）」をあわせ持った職業人を育成し、地域にとって必要で愛着をもってもらえる学校
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主体的に学び、専門的な知識と技術・技能の修得に努める生徒 ○ スポーツ・文化活動等を通じて、個性を伸ばし、心豊かな人間性を備えた生徒 ○ 規範意識を持ち社会に貢献できる生徒
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目指す学校像実現に向け、保護者・企業・地域等からの要望を受け止め、互いに情報共有を図り、すべての教職員が一体となった教育活動を進めるとともに、意欲を持って教育活動のできる教職員集団 ○ 仕事にやりがいを感じ、自らも成長しようとする教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p><生徒> 生徒の約8割が就職、約2割が進学を望んでいる。進路実現のために資格取得、部活動等における飛躍、充実した学校生活を期待している。</p> <p><保護者> 子どもたちの進路希望の実現と人間的成長を求めている。</p> <p><企業等> 元気で明るくコミュニケーションが図れ、社会に貢献できる生徒が育成されることを期待している。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<p><家庭・保護者> 連携・協力するために、学校の取組等についてさらなる情報発信</p> <p><中学校・小学校等> 出前授業、Web ページ等をとおして、学校生活の様子、専門教育の学習内容、部活動の様子などの情報発信</p> <p><企業・地域等> 心身ともに健康な人材の育成 地域活性化につながる活動への参画</p>	<p><家庭・保護者> 本校教育方針への理解と協力 役割と責任の自覚及び相互の連携・協力</p> <p><中学校・小学校等> 継続的・効果的な指導のために個々の生徒の情報共有</p> <p><企業等> インターンシップ等についての連携と協力、課外活動への支援</p>	
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業までの3年間を見通したキャリア教育の体制が確立している。 ・ 人権教育については、たいへん有意義であった。次年度向けに教材研究や講師の選定など、引き続き検討を深める必要がある。 ・ 地元小学生へのものづくり体験教室は、工業教育の魅力を発信する絶好の機会として意義があり、継続・発展を期待する。また、このような活動が生徒の専門性を深め、コミュニケーション力を高めることにつながっている。 ・ 災害時には高校生の協力が求められることから、災害を想定した地域との事前調整等が必要である。 	
(4) 現状と課題	教育活動	生徒たちは将来のスペシャリストを目指し、専門教科等の学習に努力している。さらに、部活動等でも努力し、優秀な成績を収めている。生徒の自己実現のために、教職員が「学びの精神」を忘れず、生徒理解、支援体制を充実させ、学習指導と生活指導の工夫と改善等に努力することが必要である。	
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分掌、工業各科、学年間の連携がスムーズになり、教職員間で情報が共有されているため、組織として学校全体での取組が円滑にできるようになりつつある。 ・ 就職希望者の内定率100%を維持している。 ・ 放課後や休日等の指導もあり、資格取得、ものづくり活動、部活動等において大きな成果を収めている。 ・ 7学科24学級の大規模校であり、学科による指導にばらつきがでる。 ・ 各種委員会等の会議が多くなり、教員が生徒と関わる時間を確保が必要である。 	

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 変化の激しい時代をしなやかに生きるために必要な力（生きる力）を身に付けさせるための活動を継続的・体系的に実践する。「技術と精神（こころ）」をあわせ持った職業人を育成するため、資格取得やインターンシップの一層の充実を図るとともに職業人としての「生き方・あり方」について考える教育に取り組む。 経済、産業、文化等、さまざまな面でグローバル化が進展する中、価値観の異なる多様な人々と協働していく力の育成や、海外での仕事に対する関心や理解を高めるために、海外インターンシップや外国での勤務経験がある職業人の講話などの取組を行う。 生徒や保護者が四日市工業高校に「入学して良かった」と感じ、生徒が自己実現を図ることができるよう、全職員が連携した指導体制及び支援体制を強化する。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> 社会から信頼される学校づくりのため、教職員間の共通理解と協同性を大切に、常に前向きにチャレンジし続けることができる職員集団を作る。 人権教育基本方針をもとに、人権感覚あふれる学校づくりを推進する。 生徒会活動や部活動など自主的な活動を一層充実させ、心豊かな人間性と個性の伸長を図る。 部活動における適切な練習時間を定めるとともに、生徒・部活動顧問ともに休養する日を設定（1日/週）する。 会議の精選と効率化により会議時間を減少する。また、報告書類等の内容を見直し、事務処理を軽減することで労働時間の縮減を目指す。さらに、ワーク・ライフ・バランスの推進を図り、「働きやすい職場」をつくるために定時退校日を設ける。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実と資格取得	<p>授業を大切に、基礎学力を向上させる。 学習成果の指標として学科毎に特色のある資格試験や検定試験に取り組む。</p> <p>(物質工学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生での危険物取扱者乙4類全員合格を目指す。 また、3年間で危険物取扱者全類合格者80%以上を目指す。 <p>(機械科)</p> <ul style="list-style-type: none"> 技能検定（旋盤、フライス盤、機械組立仕上げ）の合格率100%を目指す。 3年間で危険物取扱者試験乙種第4類取得90%以上を目指す。 <p>(電子機械科)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種資格取得に取り組み、合格率を前年より上げる。 第二種電気工事試験、技能検定（マシニングセンタ、シーケンサ）、ITパスポート、情報技術検定、製図検定、ガス溶接技能講習、危険物取扱者試験 <p>(電子工学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> 資格、検定試験合格者数のべ120人を目指す。 <p>(電気科)</p> <ul style="list-style-type: none"> 4級品質管理検定60%以上を目指す。 第二種電気工事士合格率70%以上を目指す。 <p>(建築科)</p> <ul style="list-style-type: none"> 2級建築施工管理技士（学科試験）、建築CAD検定3級合格率がそれぞれ全国平均以上となることを目指す。 情報技術検定3級で全員合格を目指す。 計算技術検定3級で全員合格を目指す。 技能検定3級（建築大工）の受験と全員合格を目指す。 4級建設業経理事務士の全員合格を目指す。 <p>(自動車科)</p>	<p>(物質工学科)</p> <p>乙種第4類の1年生での合格者（取得者）70%でした</p> <p>(機械科)</p> <p>技能検定全員合格を達成。</p> <p>乙種第4類の1年生での合格者（取得者）85%でした。</p> <p>(電子機械科)</p> <p>資格、検定試験合格者数のべ94人となりました。</p> <p>(電子工学科)</p> <p>資格、検定試験合格者数のべ115人となりました。</p> <p>(電気科)</p> <p>4級品質管理検定 合格率80% 第二種電気工事士 合格率72%となりました。</p> <p>(建築科)</p> <p>2級建築施工管理技士（学科試験）の合格率55%でした。建築CAD検定の合格率は77.5%でした。</p>	<p>※</p> <p>※</p> <p>※</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計算技術検定の合格率100%を目指す。 ・ 情報技術検定試験の合格率100%を目指す。 ・ ガス溶接技能講習修了証の取得率100%を目指す。 ・ 自動車整備士試験の100%合格を目指す。 	<p>計算技術検定3級の合格率は97.5%でした。</p> <p>4級建設業経理事務士は全員合格しました。(自動車科)</p> <p>計算技術検定4級の合格率は97.5%でした。</p> <p>同検定3級は、合格率は87.2%でした。</p> <p>ガス溶接技能講習修了試験は、全員が合格しました。3級自動車整備士の合格率は86.8%でした。</p>	
キャリア教育の充実	<p>キャリア教育を進推進し、職業観・勤労観を醸成する。</p> <p>インターンシップの成果発表会を行い、全ての生徒が働く意義と仕事をすることの重要性を確認する。</p> <p>2年次において生徒の60%以上がインターンシップに参加する。</p> <p>コミュニケーション能力の向上を図るとともに、「報告・連絡・相談」の習慣を身につける。</p> <p>進路講話、卒業生との懇談会等を実施する。</p> <p>ミスマッチをなくすため、応募前企業見学を実施する。</p> <p>1年次より進路の意識付けのガイダンスを実施し、自己に適した進路を主体的に選択できる力を養う。</p> <p>3年生の就職希望者の就職内定率及び進学希望者の合格率100%を目指す。</p> <p>学校図書の間貸出数8000冊を目指す。</p> <p>みえ未来人育成塾などの教育委員会等が主催する生徒が主体となる行事等に参加する。(3回以上)</p>	<p>2年次におけるインターンシップ参加者数は物質工学…39名、機械科…80名、電子機械…39名、電気科…3名、電子工学科…9名、建築科…7名、自動車科…39名で生徒の68.1%が参加しました。また、外部連携によるものづくり交流会等を実施しました</p> <p>進路講話や卒業生との懇談会等をのべ6回実施しました。</p> <p>1年生への進路講話を実施しました。</p> <p>3年生の応募前見学は100%でした。</p> <p>3年生全員の進路先が決まりました。</p> <p>学校図書の貸出冊数5,733冊でした。</p> <p>教育委員会等の主催行事への参加5回</p>	
人権教育	<p>人権LHR等とおして人権感覚を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人権LHRを1学期と2学期に全学年実施する。 ・ いじめアンケートを年3回行う。 ・ 人権だよりを通して人権の啓発や情報の発信を年3回以上行う。 ・ 命を大切に教育を行う ・ 修学旅行先の沖縄について取り上げ、平和学習の一環とする。 	<p>人権だよりを2回発行しました。</p> <p>2年生を対象に教育相談LHRを実施し、心の病気・自殺防止について学ぶ機会を設定した。</p> <p>修学旅行事前指導の中で平和学習に取り組みました。</p>	
生徒指導	<p>基本的な生活習慣の確立について取り組む。また、社会で必要な礼儀に加えコミュニケーション力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 規則正しい生活習慣の確立、遅刻のない学校生活を送る事ができるよう取り組む。 ・ 来客者や教員に対するあいさつ・礼儀作法を身につけ、社会で生きていくために必要な力を養う。 	<p>遅刻については「寝坊」が原因の生徒が昨年より増えました。</p> <p>あいさつについては、声が小さい、自発的でないといった声がありま</p>	

	<p>交通事故防止に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 登校指導により、交通マナーの順守を徹底する。 ・ 自転車通学の安全とマナー向上を図るため、講話・指導の実施とともに、自転車点検を年間2回実施する。 <p>環境美化活動に取り組む。</p>	<p>す。</p> <p>自転車通学のマナーについては、当事者意識を喚起させるため、違反生徒は啓発活動に参加しました。</p> <p>自転車点検を2回実施しました。</p>	
保健管理	<p>視力と歯についての指導を重点課題ととらえ保健指導を行う。</p> <p>生徒保健委員会による保健だよりを年5回以上発行し、生徒自身が健康について考える機会とする。また、保健便り「すこやか四工」を毎月発行し、健康への関心を高める。</p> <p>「性に関する講話」「メンタルヘルスに関する講話」を各年1回実施する。</p>	<p>重点保健指導課題として、視力では3年生には適正な矯正視力とする指導を強化。歯科については文化祭で展示、体験等により啓発に取り組みました。</p> <p>「すこやか四工」に加えて生徒保健委員会便り9枚に加え、学校保健委員会だよりを発行しました。</p> <p>性に関する指導、メンタルヘルスに関する講話を行いました。</p>	
地域・保護者との連携	<p>保護者との連携を密にし、学校との信頼関係を構築する。</p> <p>地域の小中学校と連携した出前授業、学校説明会等を10回以上行う。</p> <p>企業訪問により企業等の連携強化を図る。(企業訪問100社以上)</p>	<p>2学年の学年通信「鶉ノ森」を20号配付しました。</p> <p>出前授業、学校説明会等を13回実施しました。</p> <p>企業訪問実施率は80%でした。</p>	

改善課題

インターシップ参加生徒の98%が役に立ったと回答しました。現在のインターンシップは職場体験の色合いが強いが、インターンシップ訪問先とその内容を見直すことにより生徒が進路選択の幅を広げ、進路決定の参考にできるようにする必要があります。また、複数回インターンシップに行けるよう検討する必要があります。

生徒の多くが運動部に所属する本校では、ものづくりに関する各種競技会に参加する生徒が少人数であるため、工業教育と部活動との両立が課題です。ものづくり活動を活性化させるために部活動を引退した3年生や退部した生徒などにも声をかけていく必要があります。

図書館便りを10回発行、図書部のホームページは6回更新、推薦図書114冊購入など図書館の充実に取り組みました。また、親しまれる図書館であることが入館者(利用者)数の増加に繋がるという考えから、本校図書館独自のポスターを作成し掲示しました。貸し出し冊数だけでなく、入館者数の増加に繋がる図書館運営を目指します。

「あいさつ」については本校の基本理念を一番具現化したものです。入室時や来客とすれ違う時は言葉として伝えることができますが、さらに取り組みを進め、日常生活でも大きな声で気持ちのこもったあいさつが出来ることを目指します。

生徒の「通学マナー」に対して地域の方から意見をいただくことがあります。全ての生徒が自分事として捉えられるような指導の方策考えていく必要があります。

携帯電話、スマートフォンについて、通信機器が身近になるにつれ、指導すべき状況は増加しています。職業高校生としてのツールの適切な取扱も含め、今後も重点的に取り組むべき課題と捉えています。

教育相談専門員の活用については、定時制との調整があることから日時の設定がうまくいかない事がありました。次年度はスクールカウンセラーを申請するか、教育相談専門員を継続するかを検討する必要があります。

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
組織運営	<p>社会から信頼される学校づくりのため、保護者や地域等からの要望を受け入れ、学校・保護者・地域が一体となって開かれた学校運営を行う。そのために、教職員間の共通理解と協同性を大切に、常に前向きにチャレンジし続けることができる職員集団を作る。</p> <p>人権教育を計画的、継続的に推進するため、人権教育推進委員会を開催する。(年間11回)</p> <p>生徒に「生きる力」をつける環境づくりのため、授業変更や特別時間割の工夫により、自習課題時間を減らし授業時間の確保に努める。</p> <p>部活動における適切な練習時間を定めるとともに、生徒・部活動顧問ともに休養する日を設定(1日/週)する。</p> <p>「働きやすい職場」をつくる。</p> <p>教職員の健康管理及び過重労働削減に努め、報告書類の内容の見直し等による事務処理の軽減などにより、ワーク・ライフ・バランスの推進を図り、「働きやすい職場づくり」を目指す。そのため</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 休暇取得日数の前年比1日増を目指す。 ・ 定時退校日(1日/月)を設ける ・ 会議内容の精選と効率化により会議時間を1時間以内とする。 <p>特別支援教育推進委員会を年5回開催し、職員が支援を行えるように情報共有を図る。</p> <p>学期に1回以上「学校保健委員会」を開催し、学校医との連携・情報交換を密にする。(年間で4回以上開催)</p> <p>保健部と関係教員が共通理解のもと個々の生徒に応じた健康管理に対応する。</p> <p>授業や資格取得に有用な図書を整備する。また、読書活動を推進するため、生徒のリクエスト本を整備する。</p> <p>平成30年度に設立する専攻科について、組織的に準備する。</p>	<p>人権教育推進委員会を8回開催しました。時間割変更等を行いました。自習課題は、前年比25.7%の増でした。</p> <p>部活動の休養日を設けたが、クラブ毎に設定日が異なることから一体感のある取組となりませんでした。</p> <p>休暇取得日数は1-12月で前年より2.6日増えました。</p> <p>全ての会議を設定時間以内に終える事が出来ました。</p> <p>特別支援教育推進委員会を6回実施しました。さらに個別の支援委員会を行い、学校での配慮や支援のありかた等について協議しました。</p> <p>学校保健委員会は4回実施しました。推薦図書を114冊購入するなど図書の整備に取り組みました。</p>	
改善課題			
<p>個人の負担軽減を考え、組織的な業務の運営を検討します。更に対話を深め、学校の教育課題を議論しながら学校教育目標の達成に向け活動していきます。特に総勤務時間の縮減に向け、一層の業務の効率化と行事等の精選を図っていきます。</p> <p>授業力向上のための取り組みが、今後の検討課題です。</p> <p>特別時間割の作成及び時間割変更を積極的に行ったが、昨年度の実績を維持することができません。課題処理のクラスの偏りも、改善することができなかつた。現状の学校行事において、教務処理としては限界であり、授業時間確保のためには、根本的な見直しが必要です。</p> <p>専攻科の準備については、一部の担当者だけで行うことが多数ありました。今後は入学予定者の事前準備等において職員間の連携が必要です。</p>			

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<p>インターンシップは良い教育効果が得られるので、複数回の実施や、部活動引退後の取り組みなど拡充に向けて取り組む必要がある。</p> <p>生徒の美化活動は評価できる取り組みであり、引き続き美化活動に取り組む。</p> <p>専攻科について、生徒募集のために広報活動等において工夫をする必要がある。</p>
---------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<p>危険物取扱者乙種4類受験においては補習授業を実施した。また、他種受験者には自学自習を促すようなプリント等を作成した。資格取得と部活動との両立を図りながら、放課後の補習などを継続して行っています。また、資格取得のための勉強を個人でも行うことができるような環境作りをいっそう進めます。</p> <p>基礎学力向上のために興味を持たせるような授業を継続して行っていくとともに、インターンシップなどの工夫により、学習意欲向上のための動機付けを行います。</p> <p>工業科の標準テストを取り入れるなど、県内での本校工業科の位置付けを把握します。</p>
学校運営についての改善策	<p>会議の精選を一層進め、デスクネット等の媒体を活用し、会議の回数を減らすようにします。</p> <p>教職員の健康管理及び過重労働削減に努め、報告書類の内容の見直し等による事務処理の軽減などにより、ワーク・ライフ・バランスの推進を図り、「働きやすい職場づくり」を目指します。</p> <p>そのために引き続き以下の取り組みを</p> <ul style="list-style-type: none">・部活動休養日の見える化に取り組みます。・職員の休暇取得の対前年比増を目指します。・月に一日の定時退校日は職員どおして帰宅を促すよう取り組みます。